

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 12月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2271300267
法人名	特定非営利活動法人 シンセア
事業所名	グループホーム たみの里 長泉
所在地 (電話番号)	駿東郡長泉町桜堤2-10-10 (055-980-6581)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年11月15日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 7 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 15.5

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック、瀬川歯科医院、田中クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜堤の川沿いに桜並木を望む静かな住宅街に立地し、開設4年を迎えるホームである。ホーム長と計画作成者の思いと、職員の利用者を思いやり一緒に楽しみながら日々のケアを行い穏やかに暮らしていることが窺えるホームである。開放的な施設環境、職員間の連携・情報共有の仕組み、定期的な幼稚園児やボランティアの来訪、臨床美術による利用者が楽しみながら認知症の改善を目指す創作活動などの積極的な取り組みが行われている。これからはホーム独自理念の明確化や、自己評価を活用した個人やホーム課題への取り組み、毎月のモニタリングによる介護計画の見直しなどの取り組みなどが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義について十分理解し、評価結果についてはユニット会議で全ての職員で確認し、ホーム理念の明示や介護計画見直しの仕組み、終末期対応等を除き改善への取り組みが確認出来た。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に職員間で話し合い、ユニットリーダー・管理者にて取りまとめを行っているが、各ユニットの特徴や課題等の確認までには至っていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の外部評価の改善課題として定期的な開催に仕組み、地域関係者、行政・地域包括支援センター・家族等の参加を得て、2~3ヶ月に1度の開催を実施し、ホーム運営状況や課題についての話し合いの場として有効的に活用している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書などで苦情相談窓口を明確にし、運営推進会議や面会時の問いかけ、電話などで意見・不満・苦情等を表わす機会を設け、出された意見等はユニット会議などで全職員が共有し改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に地域の人々への挨拶や声かけを行っており、また、自治会に加入して地域の行事に参加したり、毎月近くの幼稚園児の来訪や、中学生の福祉体験受け入れなど地域との交流は活発に行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の「生き生き 生きる」という理念の下、利用者の生きがい・健康で毎日を楽しむ生活を送れるよう支援しているが、ホーム全体としての目標となるべき理念等の明示には至っていない。	○	利用者の生きがいや地域での生活を支援するためにも、ホーム独自の理念や目標等を分かりやすい言葉で明示し、職員間で共有する取り組みに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の各ユニット会議や毎日の朝・夕の申し送り等で利用者毎の取り組み課題を確認し、全職員間で理念の実践・共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の人々への挨拶や声掛けを行っており、また、自治会に加入して地域の行事に参加したり、毎月近くの幼稚園児の来訪や、中学生の福祉体験受け入れなど地域との交流は活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果についてはユニット会議で全ての職員で確認し、ホーム理念の明示や介護計画見直しの仕組み、終末期対応等を除き改善への取り組みが確認出来た。自己評価は各ユニット毎に職員間で話し合い、ユニットリーダー・管理者にて取りまとめを行っているが、各ユニットの特徴や課題等の確認までには至っていない。	○	更なる取り組みとして外部評価や自己評価の内容を各職員やユニット、ホームの課題として捉え、職員のレベルアップやホームの改善目標設定などへ繋げることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価の改善課題として定期的な開催に取り組み、地域関係者、行政・地域包括支援センター・家族等の参加を得て、2~3ヶ月に1度の開催を実施し、ホーム運営状況や課題についての話し合いの場として有効的に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは書類直接持参など定期的に連絡連携を図り、行き来するような関係作りを行っている。運営推進会議への参加依頼や開催についての連絡も取りながら関わりを深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には担当職員とホーム長による近況報告が毎月の請求書に同封されている。年4回のホーム便りやホーム行事等の写真送付や面会時の積極的な声掛けなどで行事の報告や日常の様子などが伝えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書などで苦情相談窓口を明確にし、運営推進会議や面会時の問いかけ、電話などで意見・不満・苦情等を表わす機会を設け、出された意見等はユニット会議などで全職員が共有し改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動はなるべく最小限に抑える努力をしているが、離職がある場合でも確実な申し送りや新しい職員に段階を追ってホームの介護の様式を覚えてもらい職員が代わることによる利用者へのダメージを抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修については外部研修等の情報を提供し、その機会を確保しているが、職員の経験や習熟度に応じた計画的な実施には至っていない。	○	自己評価の内容などを活用し、職員のレベルに応じた研修・テーマ分担による勉強会・資格取得の支援等、計画的に職員のスキルアップを図る取組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループホームとの定期的な交流の機会はあるが職員間の交流までには至っていない。	○	地域の他ホームと関わり、交流の機会を持つことにより自身の介護技術の確認や視野も広まり、新たな気付きや他の視点からのアドバイスを得ることも出来るので、職員レベルでの相互訪問の機会を作る取組みが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者や家族と面談し自宅訪問を行い、お茶の機会やホームの見学をしていただき、少しずつホームに馴染む機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごすように心掛け、買い物・掃除・洗濯物たたみ・新聞整理・食事片付けなど一人ひとりが役割を持って生活し、また、年長者としての教えを得ながら利用者信頼できる関係作りを大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の何気ない会話や観察の中から、利用者の思いや意向を巧みに拾い上げ把握している。得た情報は申し送り等の機会ですべて職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者・家族の意向や職員の日々の支援の中での気づき、利用者の体調変化等を基にユニット会議でアセスメントを行い個別具体的に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニット会議や日々の申し送り等で利用者の状態変化への対応は行っているが、介護計画の見直しは介護保険証の更新の時期と合わせて行っており、定期的な介護計画の見直しが行えていない。	○	利用者への支援は介護計画に基づいて行われるものである。利用者の状態は変化も多く、その時々に合わせて介護計画も見直しをしていく必要がある。利用者へのよりきめ細やかな支援へと繋げる為にも、毎月のモニタリングを記録化し、もう少し短いサイクルでの定期的見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に合わせてかかりつけ医への受診や散髪に付き添ったり、中学生の福祉教育の一環として職場体験を受け入れたりとホームの持てる多彩な機能を発揮している。桜堤のお花見には系列他ホーム利用者との交流も図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に4～5回提携医の往診と月2回の訪問看護があり、利用者の健康管理に対して厚い体制がとられている。体調の急変時にも即対応可能で利用者の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして家族からの希望があれば出来る限りの対応は行っていきたいという意向をもっているが、具体的な方針の策定までには至っていない。	○	今後ますます増えていくであろう重度化や終末期に対する要望にどう応えていくのか、職員間での話し合いを重ねると同時に、ホームとしての具体的な基本方針の策定やマニュアルの整備、また家族との合意へ至るまでの話し合いの場を設ける等の事柄に早急に取り組まれない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時、職員は利用者の耳元でそっと声をかけておりプライバシーへの配慮が感じられた。また、介護計画書や支援記録等の個人情報は事務所内の鍵のかかる棚で保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課で出掛けている午前中の散歩時間を利用者それぞれの希望に合わせて調整したり、就寝時も寝る様に声をかけるのではなく、なるべく本人の意向に任せる等、職員は利用者のペースを尊重し柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは利用者に毎日健康的に過ごして頂く為、食事を大切にしている。利用者と職員が共に囲む食卓はゆったりしつつも自然と会話が飛び交う楽しい食卓であった。準備や片付けの場面でも利用者の積極的な参加が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数等、利用者の希望に合わせていつでも対応出来る様職員の勤務体制を工夫している。希望があれば毎日の入浴も可能である。拒否のある利用者にもなるべくスムーズに入浴して頂ける様、職員は利用者の様子を良く観察しタイミングを見計らって誘う様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日々の生活に生きがいを持って頂こうと食事準備・洗濯物干し等出来る事はなるべく利用者と一緒にやる様にしている。また、月1回脳の活性化を目的に行っている臨床美術(アート療法)では、利用者が絵画・粘土細工等に取り組んでおり、作品を見た家族からは意外な才能を発見したと喜びの声も頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課となっている散歩や買い物以外にも、外食へ出掛けたり中学生の合唱コンクールを聴きに公民館へ行く等、出掛ける等外出の機会は多く用意されている。競艇が好きな利用者の希望に応じて浜名湖競艇まで足を延ばした事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に目配り・気配りを意識しながら支援を行う事で、日中は玄関やベランダにも鍵を掛けないケアを実践している。ホーム自体が周りの住宅との間に仕切りを持たない為、開放的な雰囲気がある。利用者が自由に出入り出来ると同時に、近隣の方々にも気軽に立ち寄り受けそうな雰囲気であった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回のホーム独自に避難訓練を行っているが、近隣住民等と合同で訓練を行う等、地域の協力を得られるまでには至っていない。	○	万一の事態に備え、ホームでの訓練で職員の冷静な判断力や行動力を培っておく事や、近隣の方々の協力を得られる状況を確認しておく事も必要である。その為にも今後運営推進会議での声掛けや、消防署への協力依頼等更に積極的な働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については介護日誌に日々の記録が行われているが、水分摂取量については変化時のみの記録となっている。	○	食事摂取量と共に水分摂取量についても、高齢者にとっては体調を探る為の大きな指標となる。記録に残しておく事は受診の際、医師が過去に遡って利用者の体調変化を判断する為の貴重な情報にもなる為、日々記録に残していく取り組みが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔感があり、空気の澁みもない快適な空間となっていた。廊下の壁や階段の通路に飾られたアート療法の作品は、どれも完成度が高く見応え充分であった。あまり使用されていないとの話ではあったが、畳スペースもフロア内に一層暖かみを醸し出していた。		
30	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居時それぞれが持ち込んだ筆筒やベッドが置かれていた。家族の写真や動物のぬいぐるみで賑やかに飾り付けをしてある部屋や、書棚に沢山の本が置かれている落ち着いた雰囲気のある部屋があったりと、それぞれの個性が溢れた居室となっていた。		